

〔玉葉和歌集五〕橋月といふことを

磯の上ふるの高橋代々かけて月もいく夜かすみわたるらん

〔風雅和歌集十六〕百首歌奉りし時雜歌

苔むして人のゆき、の跡もなしわたらで年やふるの高橋

〔後崇光院御記二〕御詠歌

寄橋戀

よそながらおもひかけても年はへぬわたらぬ中のふるの高橋

轟橋

〔地名便覽大和〕轟橋東大寺と興福寺の間にあり

〔枕草子三〕はしは とゝろきのはし

攝津國
堀江橋

〔伊呂波字類抄奈〕難波江橋

〔攝陽群談七〕堀江橋 同成西郡ニ屬ス、方角所指不詳、一説、今川邊郡尼崎庄下橋ニ轉ズト云ヘド

モ、其證未考、貞享年中、天滿ノ西ニ續テ堂島新地ノ市店成テ、中之島ヨリ北ニ涉ヲ堀江橋ト稱ス、

又元祿戊寅年、大坂長堀川ノ南ニ、堀江川成レリ、此川ノ頭南北ニ涉ヲ堀江橋ト稱スルニ因テ、前

名ハ玉江橋ト成レリ、

〔日本靈異記中〕智者誹妬變化聖人而現至閻羅闕受地獄苦緣第七

釋智光者、河内國人、其安宿郡鋤田寺之沙門也、略時有沙彌行基、略捨俗離欲、弘法化迷、器宇聰

敏、自然生知、內密菩薩儀、外現聲聞形、聖武天皇、感於威德、故重信之、時人欽貴、美稱菩薩、以天平十六

年甲申冬十一月、任大僧正、於是智光法師、發嫉妬之心、而非之曰、吾是智人、行基是沙彌、何故天皇不

齒吾智、唯譽沙彌而用焉、恨時罷鋤田寺而住、憊得痢病、經一月許、臨命終時、誠弟子曰、我死莫燒、略中

逕九日蘇、略中時行基菩薩、有難波令渡、椅堀江造船津、光身漸息、往菩薩所、菩薩見之、即神通知光所

右兵衛督雅孝

前内大臣